



# 大久保小だより



平成29年7月1日第4号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関2-1

048(854)7636

男子154名女子125名計279名

学校教育目標 **かいっぱい かしく やさしく たくましく**  
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

～ 優しさは、厳しさ ～

校長 相川 光彦

学校ファームの植物も一人一鉢の野菜やアサガオも爽やかな風と日光、じめじめの梅雨空との雨のお蔭で日増しに大きくなっています。ミニトマトは、小さく赤い実をつけています。校庭の枇杷もたわわに実がなり鳥たちの格好のえさとなっています。夏は、動植物の成長の時、つばめもそろそろ巣立ちの時期です。

5年生は、たかつえ自然の教室から帰ってきて一回り大きくなったように感じます。震える手でイワナをさばくことで、命の大切さを実感しました。ナイトハイクでは、真っ暗を体験しました。子どもたちにとって友だちと過ごす3日間は、心も体も成長させる素晴らしい体験だったのだと感じました。

今年も、七夕飾りをします。一人ひとりが願い事を赤や青、黄色など色とりどりの短冊に書きました。ほのぼのとした願い事が多く、思わず笑顔になってしまいます。祖父母の健康や両親や家族への感謝など心優しい願い事も多く、大久保小学校の子どもたちの心の豊かさを感じています。

「やさしさ」と「理不尽」について、考えることがあります。最近、子どもにやさしくて、理解があり、子どもの要求に応えることが大切だと考えている大人が、多いように感じます。最近のやさしさは、漢字で書くと「易しさ」になっていないでしょうか。言葉で説明すれば、「理解できる」「すぐにかわることができる」と思っていないでしょうか。

昔は、ガキ大将がいました。地域にカミナリおやじや口うるさいおばさんがいました。親も、怒号一発でした。子どもながらに「理不尽だなあ」「こわいなあ」と感じていたものです。

ペットへの優しさと子どもへの優しさは、違うところがあるとは思いますが、理屈ではなく、ダメなことは、ダメということは、同じだと考えています。子どもは、自分ができるようにならなくてはいけないことが、たくさんあります。ですから、優しさの中に厳しさがなくてはなりません。子どもにとってそれが、理不尽に思えることであっても、厳しくしなくてはいけないのです。すると子どもは、自分の意に沿わないと駄々をこねたり、暴れたり、すねたり、泣いたりして抵抗することでしょう。よく「大人は、子どもに優しく接することが大切です」と、言われています。そこで、多くの大人は、子どもの要求に屈してしまうか、きつい言葉で怒鳴ってしまうことが多いのではないのでしょうか。

理屈できちんと説明すれば、子どもは判ってくれると信じて、一生懸命に言葉を駆使して説明しますか。思い出してください。子どもの頃、頭の中は屁理屈（自分としては、正しい理屈だと思っていましたけど）で一杯だったではないですか。どんな説明よりも「ダメなものはダメ」の方が、説得力があるのです。そして、それなりに妥協できたら、「さすが、うちの子だね」と、褒めてください。小さい頃に駄々をこねるのは、必要なことです。最近、「あれ買ってえ」と、バタバタする立派な駄々を見ていない気がします。

これからも、「明日も学校に行きたい」と思える大久保小のために私たち教職員も保護者と力を合わせて、『やればできる』を合言葉に子どもたちのよさを引き出し、「ほめて伸ばす教育」を推進して参ります。よろしくお願ひします。